

支援のありがたみ・ニュースレター38号発送ボランティアに参加して

新井 利延

私は、9月4日、ニュースレター発送業務にボランティアとして参加させていただきました。今回で、年賀状の宛名書き、文京国際フェスタに次いで、3回目の参加となりました。続けて参加させていただいている理由は、自分が些細なことでも人の役に立ちたいという思いもありますが、その中でもこの「日韓アジア基金」という団体を選んでいるのは、スタッフの方々の人間性に惹かれているからです。

当日の様子ですが、今回は特に参加者の方が多く、年齢層も10代～60代までと幅広かったこともあってか、活気があったかのように思えます。

ニュースレター発送業務は、恒例の自己紹介から始まりました。今回のお題は、「省エネのためにしたこと」というものでした。エアコンの温度を上げる、エアコンを使わずに扇風機のみで過ごすといった身近な節電方法から、国外逃亡というユニークな意見もありました。



また、「おすすめの本、映画」というお題に対しては、最近公開された映画を挙げる方が多かったです。



私は、株式会社マザーハウス代表取締役である山口絵理子さんの『裸でも生きる』という本を紹介しました。この本を選んだのは、バングラディッシュというアジアの中でも特に貧しい国で、カバンを作り、立派なブランドにしようという山口さんの熱意、行動力に大変影響を受けているからです。

10時頃からは、作業も本格的にスタートしました。和気藹々というよりは、みなさん一人一人が黙々と作業をされている姿がとても印象的でした。

正午頃になると、ほとんどの作業も終わり、袋詰めに取り掛かることができました。袋詰めをし、封筒を仕分けしている時に気付いたのが、全国からたくさんの方々が支援してくださっているということでした。やはり支援してくださる方々がいるからこそ、カンボジアに支援ができるのだなあと改めて感じ、今まで以上に支援してくださる方々への感謝の思いが強くなりました。

作業後の昼食会の参加者が少なかったのは若干残念でしたが、改めて支援の大事さを気付かせていただいた今回のボランティア活動でした。